

■梅本克己 哲学者、マルクス主義研究者。戦後一貫して、主体的唯物論を展開し、共産党中央との確執に終始した。

うめもとかつみ

明治天皇没・1912＝ 栃木県下都賀郡栃木町で、生まれる。本籍は神奈川県小田原。

大正政変・・1913＝ 1歳：母が死去、以後、継母に育てられる。

原敬首相暗殺1921＝ 9歳：

海軍軍縮条約1930＝18歳：1年浪人して、

満州事変・・1931＝19歳：水戸高等学校に入学。初めて、自らの母が実の母で無いことを知り、精神的衝撃を受ける。

帝人疑獄事件1934＝22歳：東京帝国大学倫理学科に進み、和辻哲郎教授に師事、実存的苦悩が高まるなか、

二二六事件・1936＝24歳：上野のコーヒー店の少女と運命的出会いするも、一人芝居の片思いで失恋に終り、

日中戦争始・1937＝25歳：実家の伝来宗教は日蓮宗であったが、卒業論文「親鸞における自然法爾の論理」を書いて、卒業。

第二次大戦始1939＝27歳：財団法人国際文化振興会に勤務、同僚の堀越千代子と親しくなり、

日米開戦・・1941＝29歳：

・・・・・1942＝30歳：水戸高等学校教授に就任して、水戸に移住後、

創価学会検挙1943＝31歳：千代子と結婚。

敗戦・・・・1945＝33歳：水戸高等学校ストライキで、安井校長が退陣し、一高教授関泰祐が新校長になった後、敗戦を迎え、

新憲法公布・1946＝34歳：「人間的自由の限界」。民主主義科学者協会水戸支部結成に参加、以後、マルクス主義者となり、

新憲法施行・1947＝35歳：「唯物論と人間」。日本共産党に入党。稲葉宗夫らと「第二自由研究会」を組織し、活発に地域文化運動。

極東裁判決・1948＝36歳：

三大事件・・1949＝37歳：「唯物史観と道徳」。社共同に際して、党籍を公然とし、街頭演説などに挺身。

朝鮮戦争始・1950＝38歳：「唯物論入門」。*水戸高等学校が茨城大学に昇格するに際し、レッドパージによる免職、共産党の分裂に際しても、国際派に属していたため、主流派から除名処分される。以後、異端中の異端マルクス主義者として、マルクス・レーニン主義の思想的間隙を突き、主体的唯物論を展開、

独立回復・・1951＝39歳：

テレビ放送始・1953＝41歳：「人間論～実践論・矛盾論の研究序説」、

自衛隊発足・1954＝42歳：「哲学入門」。京都の立命館大学教授に招かれるも、肺結核を発病して、すぐに辞任。

55年体制始・1955＝43歳：清瀬療養所に入り、左肺の部分摘出手術。「六全協」に伴い、日本共産党に復党。

国連加盟・・1956＝44歳：続けて、気管支瘻手術、

なべ底不況・1957＝45歳：さらに、左肺全摘手術により、呼吸もギリギリの身体になるが、

インスタントラーメン・1958＝46歳：*退院して、水戸に帰る。直後に交通事故に遭って一時入院というオマケまでつくが、在野のマルクス主義研究者としての執筆活動を開始、

美智子妃・・1959＝47歳：「過渡期の意識」。「現代の理論」に党中央から発禁干渉あり、党機関誌(前衛)に反論送るも返送され、

安保闘争・・1960＝48歳：続く、安保闘争の総括巡って党中央との確執激化、

タイタイ病始・1961＝49歳：「唯物論と主体性」、

全国総合計画1962＝50歳：「人間論～マルクス主義における人間の問題」、

TV宇宙中継始1963＝51歳：「現代思想入門」。*{水戸唯物論研究会}を結成して会長となり、活発に活動、丸山真男はじめ全国的にも交流し、自らの思想的限界を超えて行く。

東京テレビ 1964＝52歳：「マルクス主義における思想と科学」、

大学紛争始・1965＝53歳：茨城大学に経済学教授として着任した武井邦夫と交流開始するなどして、{水戸唯研}の最盛期となり、

いざなぎ景気1966＝54歳：「革命の思想とその実験」、

美濃部都知事1967＝55歳：岩波新書「唯物史観と現代」、

震ヶ関ビル・1968＝56歳：「主体性の問題」に至るまで、戦後一貫して、主体的唯物論を展開してきたが、

全共闘ビーク・1969＝57歳：「唯物論入門」、

ドルショック・・1971＝59歳：「唯物史観と経済学」。党中央からの圧力の高まりに、{水戸唯研}解散に追い込まれ、

石油ショック1973＝61歳：

角栄金脈辞任1974＝62歳：宇野弘蔵との共著で、*梅本哲学の金字塔となる「社会科学と弁証法」を残して、没した。